

急性期病院における退院支援に関する文献検討

○水野雅子^{1,2}、増渕美恵子¹、野地有子²、大島紀子²

¹日本医科大学千葉北総病院、²千葉大学大学院看護学研究科

【背景】厚生労働省は平成 28 年度の診療報酬改定において、地域包括ケアシステム推進のための取り組み強化として、患者が安心・納得して退院し早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように退院支援加算を新設した。退院調整看護師養成に関しては、平成 16 年度「退院調整看護師養成プログラム作成に関する研究」において役割が明示され、退院調整看護師の養成プログラムが実施されている。

【目的】退院支援が重視され様々な取り組みが始まっている急性期病院の退院支援に関する文献検討を行い、急性期病院の退院支援の課題を明らかにすることを目的とした。

【方法】医中誌 web を用い、「急性期」「退院支援」「退院調整」をキーワードとして、過去 20 年を対象に、平成 28 年 10 月原著文献（看護）の検索を行い、文献の内容を要約しカテゴリに分類、掲載年別で内容を比較した。

【結果】「急性期」と「退院支援」は 79 件、「急性期」と「退院調整」は 44 件が検索された。検索された全 123 件から、重複文献を除き、急性期病院の退院支援に関連する文献を抽出したところ全 58 件となり、文献内容を要約し、10 のカテゴリが抽出された。平成 8 年から 20 年までは、退院調整看護師に関する役割や課題、教育に関することが主であり文献数は 6 件であったが、平成 21 年から文献数が増加していた。平成 21 年からは退院支援の現状や課題、平成 23 年からは退院支援の仕組みづくりや意識調査、教育についての文献が多くみられた。急性期病院の看護師は患者の病状を安定させる看護に時間を要し十分な退院支援ができているとは言い難い状況であること、高齢化や合併症を持つ患者の増加などから、さらに個別的な退院支援が求められていることが課題となっていた。また、課題解決に向けて、急性期病院における退院支援に関するカンファレンスや退院支援システムの導入、退院後を見通した看護の視点の強化などがあげられていた。

【考察】文献検討から、急性期病院の退院支援は、退院調整看護師の育成から看護師と退院調整看護師との連携、多職種による支援への変遷がみられた。限られた時間で個別的な退院支援を実施するために、退院支援システムの整備、看護師の能力開発の必要性が示唆された。